

ライチ便り No. 61

～福岡広州ライチ倶楽部会報 2025 年 3 月号～

<http://lychee-club.jp/>

2025年を迎え、元旦、春節、立春と、暦は次々に流れて、間もなく新しい事業年度を迎えようとしています。慌ただしい時間の移ろいの中で、あれよあれよと言っている間に、今年も早や3月を迎えるのですね。

ともあれ厳しい寒さがやっと終わり、暖かくなって外での活動が快くなります。皆さん、うんと手足を伸ばして、元気に外へ出かけましょう！

中国の春節が世界遺産に登録されました

中国の旧正月——春節、今年は1月29日でした。

広州の友人から1月27日にウィチャットで見出しの内容を知らせる、誇らしげな長いメールが届き、この喜ばしいニュースを知ったので、改めてネットで調べてみると、次のような朝日新聞の記事が出ていました。

「ユネスコ（国連教育科学文化機関）の政府間委員会は2024年12月4日、中国の伝統的な祝日「春節」（旧正月）を無形文化遺産に登録することを決めた。『家族の価値や社会の結束を高め、中国の人々にアイデンティティーの感覚を与える』と評価された。

中国では旧暦1月1日の前後1週間ほどが大型連休となり、多くの人々が帰省して家族で新年を祝う。ちょうちんを飾ったり爆竹を鳴らしたりする風習があり、世界各地の華人社会でも祝われる。中国国営新華社通信は『国内外の中国の子どもの文化的アイデンティティーを増進し、人類運命共同体の構築を促進する上で大きな意義がある』などと論評した。」





友人のメールは中国で報じられたニュースをそのままコピーしたものでした。

『…（中国人の家族愛は）宗教よりも、政治よりも、金銭よりも大きな力であり、家が貧しい僻地にあらうと、ネオン煌めく都会にあらうと、誰もがはるか遠くから山川を越えて家に向かう。…（中略）…こうし

た巨大な凝集力は長い歴史上衰えたことがなく、皇帝が交代しても、王権が変わっても、中国人が帰郷して年を越すという心情は終始変わったことがない。金があってもなくても家に帰って年を越す、それが中国人の血を分けた一族への思いなのだ。』（翻訳千葉）

これを読んで、私（千葉）は1986年、子連れ留学当時の春節の情景をありありと思い出しました。母娘3人初めて広州で春節を過ごすことになり、夫が福岡から休暇を取って訪ねてきたのです。当時は直行便などありません。香港から列車で広州入りした夫を広州駅まで迎えに行って、会えなかったのです！溢れるような人、人、人！まだ中国が貧しかった時代です。帰省客は皆が皆、おみやげであろう大きな荷物を抱えており、中には生きた鶏を下げた人もいて、あるおばあさんは誰かの名前を大声で叫び続けていました。何時間か待ち続け、探し続け、ついに諦めて、広州の皆さんが私たち家族のために用意してくださっていた宴席に戻ると、涙が溢れました。その大みそかの夜、街中で響く爆竹の音と、夜空に漂う白い煙を悲しい思いで眺めたことが忘れられません。

翌日、無事に夫と巡り合ったいきさつはここではカットしますが、当時私は、中国人の春節における大移動のすごさをまったく知らず、甘く見ていたのです。友人からの記事にある「中国人の家族への思い、春節への思い」は本当に確かなものです。

日本でも同様ですよ、お正月は家族と一緒に、と。ただその規模がずっと大きく、すさまじいのです。

* 当倶楽部のHPと各種 SNS を開設しています。是非アクセスしてみてください。

* 会費未納の方は、今年度会費の振込をお願いします。個人：3000 円 団体：一口 10000 円

* 会報を送付するのは電子メールが便利です。メールアドレスをお持ちの方は是非お知らせください。